

歿後10年

特別展

吉本隆明 廃墟からの出立

北海道立文学館
特別展示室

2023
01
09 (祝)

2022
10
29 (土)

- ◎開館時間 9時30分～17時(入場は16時30分まで)
- ◎休館日 月曜日(ただし、11月7日(月)と1月9日(月・祝)はのぞく)、年末年始(12月29日(木)～1月3日(火))
- ◎観覧料 一般700(560)円、高大生および65歳以上の方450(360)円、小中生300(240)円
- ※(一)内は10名以上の団体料金 ※学校の教育活動の一環として観覧する小中高生と引学者、身体障害者手帳などをお持ちの方と引学者などは観覧無料となります。詳細は文学館までお問い合わせください。
- ◎主催 北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社
- ◎後援 札幌市、札幌市教育委員会
- ◎協力 晶文社

中島公園
北海道立文学館
HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE
〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号
TEL. 011-511-7655 FAX 011-511-3266
<http://www.h-bungaku.or.jp/>

『言語にとって美とはなにか』『共同幻想論』など多くの著作で知られる吉本隆明。詩作のかたわら吉本は、人間や社会の意味を根底から問い直し、言語・芸術・宗教・性など幅広い分野にわたる評論活動をジャンル横断的に行いました。その表現・思想の淵源に何が潜えられていたのか。本展では、敗戦直後の廃墟にあつて、精神と生活の危機に直面しながら、ひとり詩を書き、世界把握の方法を模索した吉本の追究の姿を、自筆原稿・ノート・著作などを通して探ります。

特別展 歿後10年

吉本隆明 廃墟からの出立

吉本隆明

(よしもと・たかあき 1924～2012年)

詩人、評論家、思想家。1924(大正13)年、東京の月島で生まれる。米沢高等工業学校を経て、東京工業大学電気化学科卒。東洋インキ製造株式会社に勤務しながら、詩集『固有時との対話』(52年)、『転位のための十篇』(53年)を刊行。『高村光太郎』(57年)、『芸術的抵抗と挫折』(59年)などで、文学者の戦争責任や転向を鋭く問い、注目される。1961年、既成の思想と文化運動からの自立を掲げて『試行』を創刊。以降、多領域で独自の理論を構築。著書に『言語にとって美とはなにか』(65年)、『共同幻想論』(68年)、『心的現象論序説』(71年)、『最後の親鸞』(76年)、『マス・イメージ論』(84年)、『アフリカの段階について』(98年)など。このほか対談集、講演集も多数ある。

背景の写真：吉本隆明の書斎 2022年撮影

●講演会

吉本隆明と現在

講師：三浦雅士(評論家)

※対面・実施日：11月12日(土)14:00～15:00 当館講堂にて 無料
申込：11月1日(火)9:00～ 電話で 先着25名
※オンライン・申込：11月1日(火)9:00～ 先着60名
配信期間：11月22日(火)12:00～2023年1月9日(月・祝)17:00

●対談

吉本隆明の「始点」をめぐる

講師：瀬尾育生(詩人)、村瀬学(児童文化研究者)

※対面・実施日：11月23日(水・祝)
前半13:00～14:30、後半15:00～16:30 当館講堂にて 無料
申込：11月9日(水)9:00～ 電話で 先着25名
※オンライン・申込：11月9日(水)9:00～ 先着60名
配信期間：12月9日(金)12:00～2023年1月9日(月・祝)17:00

◎オンライン・イベントの申し込み先

当館ホームページ、または右のQRコードからお申し込みください。 ※配信は2023年1月9日(月・祝)で終了します。



●講座

吉本隆明の戦後について

講師：高橋秀明(詩人、公益財団法人北海道文学館理事)

11月27日(日)14:00～15:00 当館講堂にて 無料
申込：11月11日(金)9:00～ 電話で 先着25名

●映像上映会

吉本隆明講演会「わが月島」

1992年10月31日に東京都中央区立月島図書館で行われた講演会の映像をDVDで上映します。82分。 ※映像提供：月島図書館
12月10日(土) ①10:30～②13:30～ 当館講堂にて 無料
※要申込：11月25日(金)9:00～ 電話で 各回先着25名

●常設展のご案内

北海道の文学

通年開催

北の大地に育まれた北海道の文学。自筆原稿や初版本など貴重な資料を展示。詳細はお問い合わせください。
観覧料 一般500(400)円、高大生250(200)円
※()内は10名以上の団体料金。65歳以上、中学生以下無料。高校生は土曜日無料。

●常設展アーカイブ

「ふみくらの中の朔太郎」

10月29日(土)～12月25日(日)常設展示室内
当館所蔵の萩原朔太郎関連の資料を紹介いたします。

次回特別展

細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句

2023年1月21日(土)～3月19日(日)

観覧料 一般500(400)円、高大生250(200)円
※中学生以下、65歳以上の方は無料。

◎ご来館のお客様へ

入館にあたってのお願い
◇発熱や体調不良などの症状のあるお客様はご来館をお控え下さい。◇館内入口にて検温を行います。37.5度以上の発熱が認められた場合、入館をお断りします。◇感染予防対策として、マスクの着用をお願いします。◇緊急連絡先記入のお願い
来館者や職員に新型コロナウイルスによる感染者が発生した場合に、その事実を皆様にお伝えするため連絡先の登録をお願いします。

【交通案内】◎地下鉄南北線【中島公園駅(出口③番)】または【幌平橋駅(出口①番)】から徒歩6分。◎市電【中島公園通】から徒歩10分。◎JRバス・中央バス【中島公園入口】から徒歩4分。

【お問い合わせ】公益財団法人北海道文学館
TEL 011-511-7655 FAX 011-511-3266
http://www.h-bungaku.or.jp/

フェイスブック、ツイッターでも情報発信中!

北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

施設設置者：北海道教育委員会 指定管理者：公益財団法人北海道文学館



道立文学館 検索